

Title	第五十三巻第七号-第十二号総目次：昭和三十五年下半期
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1960
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.12 (1960. 12) ,p.1- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19601201-0071">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19601201-0071</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田学会雑誌 第五十三巻 第七号、第十二号 総目次 (昭和三十五年下半期)

論 説

一四世紀後半リューベック市会の構成……………	高村象平	七	一	五七五
農家経済の再生産構造と農民層の分解——長野県諏訪市湖南地区真志野集落を素材として……………	常盤政治	七	一	五八五
一九五〇年代後期の日本の財政学における財政の本質および体系に関する問題——前進のための若干の疑問の提出……………	高木寿一	八	一	六七一
議会制度とエンゲルス……………	正田庄次郎	八	一六	六八六
イギリス労働党における社会化思想の変遷……………	村田光義	八	三三	七〇三
「豊かな社会」と厚生経済学の三命題……………	千種義人	九	一	七三九
日本における国際的長期資本及び国際的短期資本の役割……………	大宮悛一	九	一八	七五六
設備規模と市場競争——過剰能力説の展開……………	大熊一郎	九	一	八一三
フランク社会における国家化と封建化の競合……………	宇尾野久	十一	一三	八二五
「転形問題」について……………	持丸悦朗	十一	二八	八四〇
アジアにおける地域的経済統合の可能性……………	山本登	十二	一	一〇二一
十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義(一)……………	飯田鼎	十二	九	一〇二九
——一八四八年以前のチャーティスト運動とマルクスおよびエンゲルス——				

野村兼太郎博士追悼

〔書評〕三木與吉郎編「阿波藍譜」	野村兼太郎(遺稿)	八三	八九五
野村教授の急逝を悲しむ	小島 栄次	八五	八九七
野村兼太郎博士年譜及び著作目録	宇治順一郎	八六	八九八
野村先生の哲学	白石 厚	一二八	九四〇
イギリス経済史研究と野村先生	高村 象平	一三八	九五〇
日本経済史学界における野村教授の業績	速水 融	一四四	九五六
日本経済思想史研究を回顧して	島崎 隆夫	一五三	九六五
大垣藩領美濃国本巢郡神海村の戸口統計	野村研究会 神海村共同研究会	一六六	九七八
	延宝二年より 明治五年まで		

資 料

年齢別女子労働力率の変動要因	尾崎 巖	七	六一一
G・D・H・コール、その人と業績——最近の追憶から——	飯田 鼎	九	七七七
メテリの検出	渡辺 国広	九	七八七
顕現的選好の理論と積分可能性の問題	神谷 伝造	十一	八五二
ウィリアム・ゴドウィン研究文献(四)——人口論争をめぐって——	白井 厚	十二	一〇五六

学 界 展 望

いわゆる「年功賃金制度」論	黒川 俊雄	七	六三八
---------------	-------	---	-----

書 評

津田真澄著『労働問題と労務管理』	中鉢 正美	七	六四六
フリーサー・ブリッグス編『チャイナ研究』	飯田 鼎	七	六五二
F・C・メーザイ著『チャイナ時代の公共秩序』	安川 正彬	七	六五六
中山伊知郎共著『適度人口』	原 豊	七	六六一
加藤 直美著『社会化と経済計画』	渡辺 国広	八	七二〇
シエル・O・リーマスマ『オランダにおけるカルヴィニズムと資本主義』	庭田 範秋	八	七二五
森下二次也編『商業経済論体系』	田 中 明	八	七二九
佐々木俊次著『ロシア思想史——ストラウ思想の展開——』	飯田 鼎	九	七九四
マーベル・マイルゴート著『一八五一年以前における ランカンシアおよびヨークシアの機械工学校』	北原 勇	九	七九八
巽 信晴著『独占段階中小企業の研究』	白井 厚	九	八〇三
山田孝雄著『ベンサム功利説の研究』	中鉢 正美	九	八七三
大河内一男共著『家庭経済学』	飯田 鼎	九	八七五
ジョーン・サウエル共編『労働運動史論』	正田 健一郎	九	八八〇
『講座・中小企業・第一巻——歴史と本質——』			

『講座・中小企業・第二巻——独占資本と中小企業——』	戸木田嘉久	十一	七一	八八三
フランス百科全書における農業技術——一つの覚え書のために——	渡辺国広	十二	五二	一〇七二
東畑精一編『農村過剰人口論』	高山隆三	十二	六〇	一〇八〇

新刊紹介

マシューズ著『景気循環』	大熊一郎	七	九三	六六七
国際経済学会編『論争・国際価値論』	矢内原勝	七	九三	六六七
島 恭彦著『現代の国家と財政の理論』	大島通義	七	九四	六六八
『講座・社会保障・第三巻』	藤沢益夫	七	九五	六六九
加藤 寛著『ソ連の経済成長と経済計画』	丸尾直美	七	九六	六七〇
米山桂三著『産業社会学序説』	青沼吉松	八	六四	七三四
日本生産性本部生産性研究所編『技術革新と日本経済』	尾城太郎丸	八	六五	七三五
中国研究所訳編『現代中国経済史』	平野絢子	八	六六	七三六
日本統計研究所編『日本統計発達史』	西川俊作	八	六七	七三七
林業発達調査会編『日本林業発達史・上巻』——明治以降の展開過程	島崎隆夫	九	七〇	八〇八
ガルブレイス著『ゆたかな社会』	大熊一郎	九	七一	八〇九
鈴木哲太郎訳	大島通義	九	七一	八〇九
戸原四郎著『ドイツ金融資本の成立過程』	白井厚	九	七二	八一〇
H・ルフェーヴル著『カール・マルクス——その思想形成史——』	村井俊雄	九	七三	八一〇
吉田静一訳				
W・M・デイシー著『現代イギリス銀行論』				
紅林茂夫訳				

家永三郎著『植木技盛研究』	飯田 鼎		七七	八八九
柴田三千雄著『フランス絶対王政論』	渡辺国広		七七	八八九
農民運動研究会編著『農民運動の基本問題』	常盤政治		七八	八九〇
労働省賃金調査課編著『日本の賃金構造』	井村喜代子		七九	八九一
ソ連邦国立政治文献出版所編『レーニン伝』I	野地洋行		八〇	八九二
日本共産党中央委員会宣伝教育部訳				
中東調査会編『アジア・アフリカ民族運動の実態』	矢内原 勝	十二	六五	一〇八五
アメリカ議会合同経済委員会編『経済力の比較(上下)』——合衆国とソビエト連邦——	加藤 寛	十二	六五	一〇八五
時事通信社外信部訳				
野口 祐著『日本資本主義経営史』(戦前篇)	尾城太郎丸	十二	六六	一〇八六
三枝博音				
野崎茂	野口 祐	十二	六七	一〇八七
佐々木峻				
藤田若雄著『第二組合』(増補版)	井村喜代子	十二	六八	一〇八八
福島正夫著『人民公社の研究』	平野絢子	十二	六九	一〇八九